

「緑の雇用」研修生の特性分析^{*1}

— 林業労働市場の類型化をもとに —

園屋奈緒子^{*2} ・ 興杓克久^{*3} ・ 佐藤宣子^{*4}

園屋奈緒子・興杓克久・佐藤宣子：「緑の雇用」研修生の特性分析 九州森林研究 58：17-22, 2005 2003年度に始まった「緑の雇用担い手育成対策」事業により林業へ就業した「緑の研修生」は、これまでの林業労働者に比べて析出基盤が多様化しており、彼らのタイプは地域により差異があることが確認されている。本研究では「緑の研修生」の特性について、林業労働市場の地域性による違いを明らかにするために、全都道府県の実業労働市場の類型化をもとに、全国の「緑の研修生」に対して実施されたアンケートの調査結果を分析した。林業労働市場を特徴づけるものとして、林業労働者の高齢化率及び農林家からの析出余力に着目し、その2つの指標を類型化に用いた。その結果、林業労働市場のタイプによる「緑の研修生」の属性や就業への動機、継続意向などの差異が明らかとなった。

キーワード：林業労働、緑の雇用、新規就業者、林業労働市場、自営農林家

I. はじめに

近年の林業労働の動向に関しては、これまで多くの人が指摘してきたように、新たなタイプの新規就業者が増加してきており、林業労働者の多様化が見られるようになってきた(1, 2)。そうした中2003年度から、「緊急雇用対策」で雇用された短期林業従事者を対象に、中核的林業労働者を確保・育成することを目的として「緑の雇用担い手育成対策」事業(以下、緑の雇用)がスタートした。この事業では同時に、地球温暖化防止に資する森林整備の推進と、UIターナーを中心とした都市から山村への人の流れによる地域活性化を目的としており、全国各地の森林組合などの林業事業体で実施されている。初年度の2003年度には、全国で約2,400人が「緑の研修生」(以下、研修生)として林業へ就業した。

「緊急雇用対策」とリンクしたことで、近年の深刻な不況による失業者・求職者から林業への参入が見られ、労働力の析出基盤が従来よりも国民諸層に広がっていることが既に確認されている(3)。そして事業への取り組み方や研修生のタイプは地域によってさまざまであることが、指摘されている(3)。また、園屋は、宮崎県耳川流域を対象に事例分析を行い、山村地域において、地元の自営農林家が林業労働市場に析出し、緑の研修生として森林組合に雇用されるという、本事業の趣旨とは異なる動きを確認している(4)。

したがって、今後の林業労働対策を考える上で、新規就業者の性格を林業労働市場の地域性との関連で把握することが求められている。同時に、本格就業を前提として就業する研修生は林業への新規就業者であり、研修生の分析は近年の新規就業者の特性を把握することでもある。

そこで本研究では、研修生の特性に焦点を当て、林業労働市場が異なるそれぞれの地域において、今どのような人が林業労働へ新たに参入し、定着しようとしているのか、そして彼らのタイプと林業労働市場にはどのような関係があるのかを明らかにすることを目的とする。

II. 研究方法及びアンケートの概要

本研究では第一に、地域の林業労働市場における研修生の特性を把握するために、2000年世界農林業センサスと同年国勢調査を用いて、全都道府県の実業労働市場についてタイプ分けを行った。第二にそのタイプ別に、アンケート「緑の雇用評価調査」結果を分析し、研修生の特性と意識を考察した。

アンケート「緑の雇用評価調査」は、2003年11月～2004年3月に全国森林組合連合会及び林政総合調査研究所が⁵、2003年10月時点の研修生全員(2,366人)及び、研修生を受け入れている全事業体(483事業体)を対象に行ったものである。そのうち本研究では研修生に対するアンケートについて分析を行った。

研修生向けアンケートは年齢、前職や出身地を始めとする属性、研修に対する意識や感想及び今後の継続意向、本事業に対する評価などを尋ねたもので、回収率は73.4%であった。

III. 林業労働市場の類型化

地域の林業労働市場を特徴づけるものとして様々な要素があり、研修生のタイプはそれらの影響を受けると考えられる。供給側の要素としては、地域における林業労働市場への労働力の析出余力や、地域の雇用情勢などがある。一方、需要側の要素としては、

^{*1} Naoko, S., Katsuhisa, K. and Noriko, S. : On characteristics of forest workers employed through 'Green Employment Policy'

^{*2} 九州大学大学院生物資源環境科学府 Grad. Sch. Biores. Bionenvir. Sci., Kyushu Univ., Fukuoka 812-8581

^{*3} 林政総合調査研究所 Forest Policy Research Institute, Tokyo 112-0004

^{*4} 九州大学大学院農学研究院 Fac. Agric., Grad. Sch., Kyushu Univ., Fukuoka 812-8581

林業労働者の高齢化による労働力不足あるいは後継者不足度合い、地域の林業生産力や林業事業者の受け入れ態勢、さらに自治体の林業政策方針など様々なものが考えられる。中でも、これまでの林業労働者の深刻な高齢化は、林業労働対策の必要性を喚起してきており、その地域において新たな林業労働者を確保・育成する必要があるかどうかは、既存の林業労働者の高齢化率によって示される。

また、供給側の要素に関しては、先述のように、自営農林家の中から余剰労働力が林業労働市場へ析出される事実を確認している。そのような地域では自営農林家が、地域の林業労働市場へ労働者を析出しうる余力を有しており、他産業からの多様な労働者が参入する余地を狭める要因となる。したがって、地域の自営農林家からの析出余力の大きさは、その地域の研修生を特徴づける重要な要素になると考えた。

そこで本研究では、林業労働者の高齢化率と自営農林家からの析出余力の2つの要素を取り上げ、全都道府県の林業労働市場について類型化を行った。林業労働者の高齢化率については、2000年国勢調査における林業就業者のうち雇業者の65歳以上割合を指

標として用いた。林家から林業労働市場への析出余力については、2000年世界農林業センサスにおける林家1戸当たり自営林業従事世帯員数(人日/戸)を指標とした。以上2つの指標を都道府県別にグラフに示した(図-1)。その後、両指標の平均値を基準として、4タイプに分類した。

図-2のように順にタイプI, II, III, IVと名付けると、まずタイプIは林業労働者の高齢化が進行しており、農林家の析出余力が大きいタイプである。タイプIIは、若い林業労働者がいて、農林家からの析出余力が大きいタイプである。またタイプIIIは、若い林業労働者がいて農林家からの析出余力が小さいタイプ、そしてタイプIVは林業労働市場の高齢化が進行しており、農林家からの析出余力も小さいタイプとなる。

IV. アンケートの分析

1. 緑の研修生の属性

まず、研修生の年齢について林業労働市場のタイプ別に見ると(図-3)、タイプI, IIは50歳以上が半数を占め、特にIIは高齢

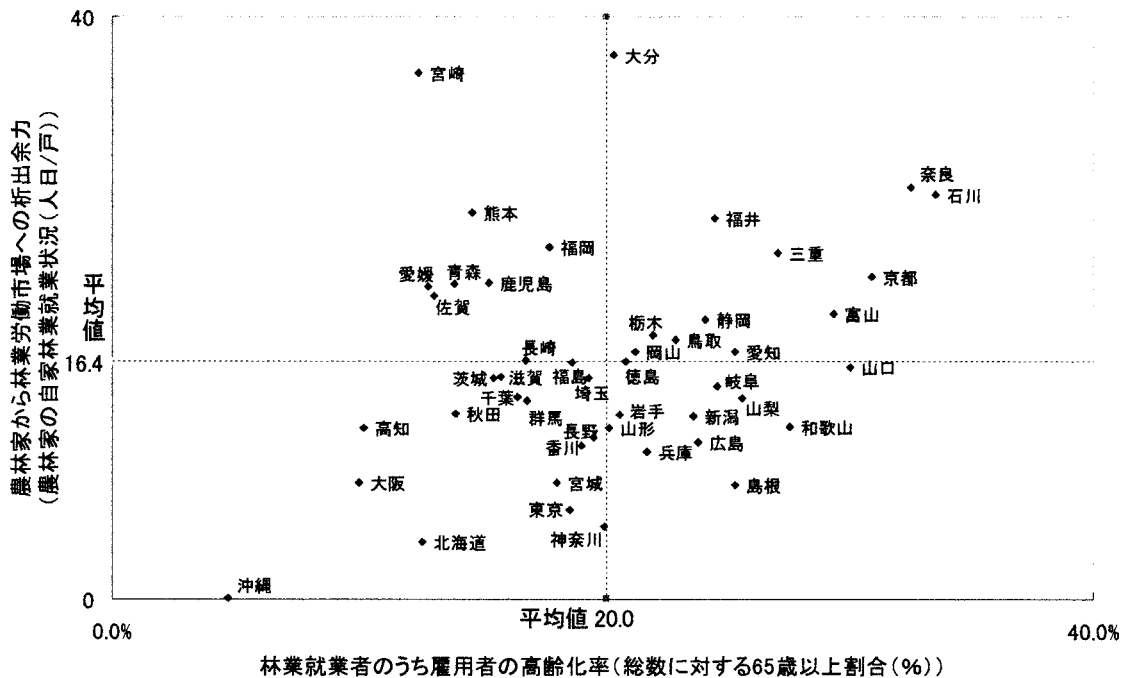


図-1. 林業労働者の高齢化率と農林家からの析出余力

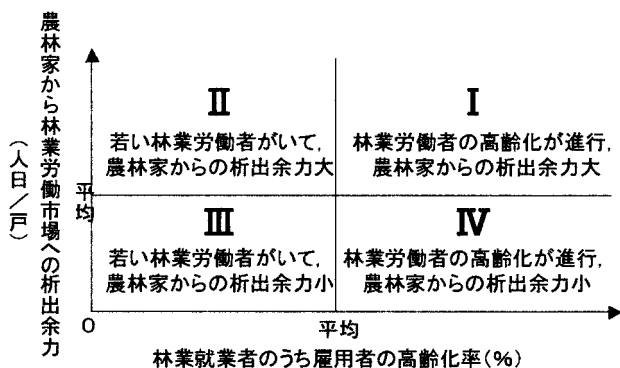


図-2. 林業労働者の高齢化率と農林家からの析出余力

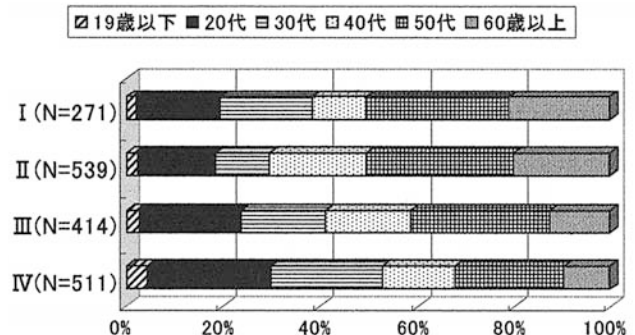


図-3. 研修生の年齢構成

層の参入が最も顕著である。一方、タイプⅣは高齢層が少なく若年層が最も多く参入している。次に、研修生の前職時の居住地については(表-1)、どのタイプも現住所の市町村または近隣市町村、つまり地元からの参入者(以下、地元者)が6割を占めており、最もそれが多いのタイプⅡである。また、他市町村や都道府県外など他地域からの参入が比較的多いのはタイプⅣであり、タイプⅣはUIターン者が多い。

研修生の前職は(表-2)、全体的に製造・サービス業が最も多いが、タイプⅠとⅡは自営農林業や林業労働出身者の割合が高いことが分かる。なおタイプⅢは土建業出身者、タイプⅣは新卒者や製造業サービス業出身者が比較的多いのが特徴である。

ここで、前職の職業間で、地元者とUIターン者の割合に違いがあるかどうかを把握するために、それぞれのタイプごとの、前職と前職時の居住地の関係を表-3に示した。その結果、自営農林業及び林業労働出身者は、地元者の割合が高く、一方新卒者や他産業出身者ではUIターン者の割合が高いことが全タイプに共通していることが明らかとなった。したがって、タイプⅠ、Ⅱにおいては、地元の農林業からの参入が多く、タイプⅢ、Ⅳでは、

表-1. 研修生の前職時の居住地
上段:人数, 下段:割合(%)

	合計	現住所の市町村・近隣市町村	都道府県内のその他の市町村	都道府県外
合計	1474	1035	185	254
	100	70.2	12.6	17.2
Ⅰ	248	180	32	36
	100	72.6	12.9	14.5
Ⅱ	409	307	55	47
	100	75.1	13.4	11.5
Ⅲ	383	273	47	63
	100	71.3	12.3	16.4
Ⅳ	434	275	51	108
	100	63.4	11.8	24.9

UIターンの新卒や他産業出身者が多いことが分かる。

次に最終学歴を見ると(図-4)、タイプⅠ、Ⅳは短大・大卒以上の占める割合がそれぞれ22%、19%と比較的高く、タイプⅡは中卒・高卒が85%を占めた。

図-5は研修生の農林地所有の有無を示したものである。タイプⅠ、Ⅱでは、農地または山林及び農地山林ともに所有している人が、それぞれ53%、66%と比較的多い。特にタイプⅡでは農地山林ともに所有している研修生が5割占めている。

また林業労働に従事した経験の有無(「緑の雇用対策」, 「緊急雇用対策」以前)を見ると(図-6)、全タイプにおいて4割以上が林業従事経験者であり、その中で、自営林家からの参入が見られることが分かる。特にタイプⅡでは林業従事経験者の割合が4タイプの中で最も高い。

2. 緑の研修生の就業への動機

表-4は緑の雇用の研修生として林業労働に従事した理由を尋ねた結果である(複数回答)。全体的に「森林や自然相手の仕事がしたい」、続いて「のんびり健康的な暮らしがしたい」が大多数であるが、それらが比較的低いタイプⅡでは「地方でやりたい

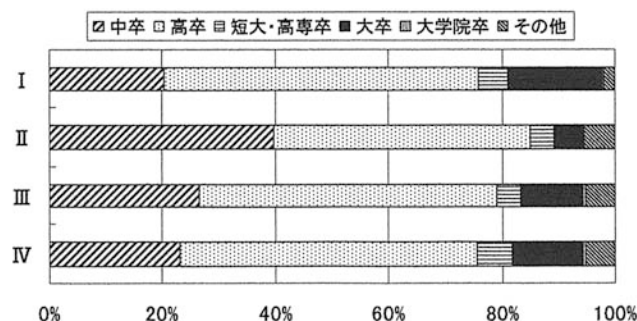


図-4. 研修生の最終学歴

表-2. 研修生の前職

上段:人数, 下段:割合(%)

	合計	新規学卒	自営農林業	自営商工業	林業労働者	土建労働者	職人	製造・サービス業	事務・営業	技術者	公務員	フリーター	その他	失業
合計	1583	52	134	48	186	169	94	359	90	99	21	91	183	57
	100	3.3	8.5	3	11.7	10.7	5.9	22.7	5.7	6.3	1.3	5.7	11.6	3.6
Ⅰ	260	8	15	9	34	18	11	63	19	19	5	16	29	14
	100	3.1	5.8	3.5	13.1	6.9	4.2	24.2	7.3	7.3	1.9	6.2	11.2	5.4
Ⅱ	463	7	68	8	68	52	19	85	20	35	7	24	56	14
	100	1.5	14.7	1.7	14.7	11.2	4.1	18.4	4.3	7.6	1.5	5.2	12.1	3
Ⅲ	399	14	24	12	42	53	28	92	23	20	3	22	52	14
	100	3.5	6	3	10.5	13.3	7	23.1	5.8	5	0.8	5.5	13	3.5
Ⅳ	461	23	27	19	42	46	36	119	28	25	6	29	46	15
	100	5	5.9	4.1	9.1	10	7.8	25.8	6.1	5.4	1.3	6.3	10	3.3

表-3. 前職別に見た前職居住地

(単位:%)

	Ⅰ 現住所・近隣市町村	Ⅰ 都道府県内その他市町村	Ⅰ 都道府県外	Ⅱ 現住所・近隣市町村	Ⅱ 都道府県内その他市町村	Ⅱ 都道府県外	Ⅲ 現住所・近隣市町村	Ⅲ 都道府県内その他市町村	Ⅲ 都道府県外	Ⅳ 現住所・近隣市町村	Ⅳ 都道府県内その他市町村	Ⅳ 都道府県外
① 新規学卒	57.1	14.3	28.6	50	16.7	33.3	76.9	0	23.1	42.9	19	38.1
② 自営農林業・林業労働者	89.4	4.3	6.4	88.3	9.9	1.8	82.3	8.1	9.7	77.2	14	8.8
③ 他産業、他	68.9	15	16.1	70.4	14.6	15	68.6	13.7	17.6	62.4	11	26.7

注:表-3での「自営農林業」及び「林業労働者」を②とし、新規学卒者(①)と②以外を③に含めた

表-4. 研修生になった理由 (複数回答)

上段:人数, 下段:割合 (%)

	合計	地方でやりた い仕事あり	家業を 継ぐ	家を 持ちたい	健康的な暮 らしがしたい	希望するラ イフスタイル	自然相手 の仕事	子供の教育 環境	親の面倒	都会で就職 先なし	都会の生活・ 人間関係がいや	その他
合計	1655	189	186	75	582	298	1272	139	217	236	145	154
	100	11.4	11.2	4.5	35.2	18	76.9	8.4	13.1	14.3	8.8	9.3
I	261	26	32	9	99	60	214	12	31	39	25	27
	100	10	12.3	3.4	37.9	23	82	4.6	11.9	14.9	9.6	10.3
II	508	90	70	19	174	58	379	63	68	65	33	36
	100	17.7	13.8	3.7	34.3	11.4	74.6	12.4	13.4	12.8	6.5	7.1
III	402	34	39	17	153	90	333	28	61	52	45	37
	100	8.5	9.7	4.2	38.1	22.4	82.8	7	15.2	12.9	11.2	9.2
IV	484	39	45	30	156	90	346	36	57	80	42	54
	100	8.1	9.3	6.2	32.2	18.6	71.5	7.4	11.8	16.5	8.7	11.2

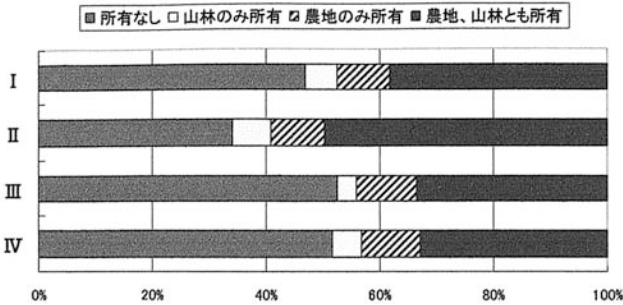


図-5. 研修生の農林地所有の有無

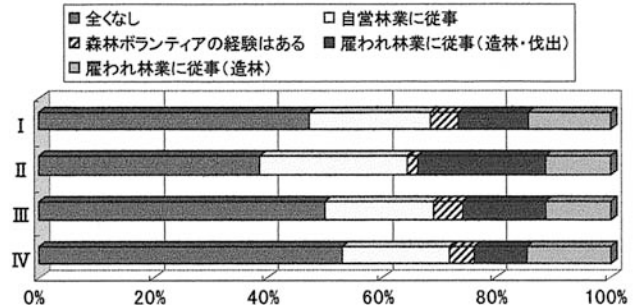


図-6. 研修生の林業労働従事経験の有無

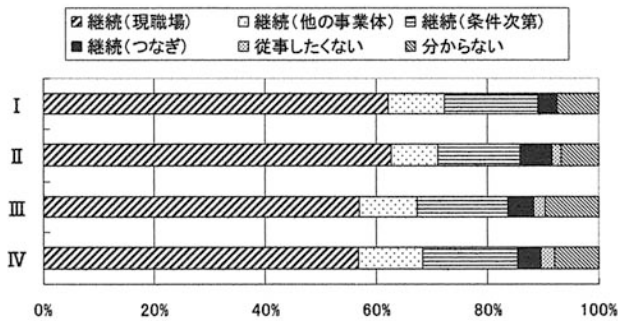


図-7. 研修生の森林作業継続の意思

仕事がある」や「家業を継ぐ」が他タイプに比べて多く、他タイプとは違う傾向を示している。

3. 研修生の継続意向

研修生の今後の森林作業の継続意向に関して、図-7に示した。全体的には7割前後が「これからも今の職場で働きたい」または「仕事があれば他事業体でも働きたい」と考えている。ただタイプ別で比較すると、I, IIはIII, IVに比べて継続意志をもつ割合が高い。次に、地元者とUIターン者ではどちらが継続意志があるかを見るために、継続意志の有無と前職時の居住地との関係をタイプ別に表-5に示した。その結果、タイプIとIVでは都道府県外出身者が地元者に比べて継続意志があること、またIIとIIIは共通して、地元者がUIターン者よりも継続意志を持つ傾向があることが示された。

4. 今後林業に従事する条件

研修生を今後も林業に定着させるために、何を整備すべきかを把握する必要がある。そこで今後林業に従事するために重視する条件を尋ねた結果(複数回答)を見ると、全体的に「賃金、就労

時間、社会保険などの就労条件が改善される」、次いで「労働者に資格や免許を積極的に取得させる」(資格などの取得)、「現場作業員の仕事に対する適正な評価を行い、待遇に反映させる」を重視している(表-6)。またタイプ別に見て特徴的なのは、タイプIIが「資格などの取得」が多い一方「技術研修を充実させる」は他タイプより少ない。これは経験者が多いためであると見られる。そしてタイプIVでは「経営方針・事業計画の決定や営業活動など事業体経営にも積極的に現場作業員を参画させる」や「住宅の支援制度を充実させる」を重視しており、これはUIターン者が多いことを反映している。

V. まとめ

以上のアンケート分析をもとに、林業労働市場のタイプ別に研修生の特性をまとめると以下ようになる。

1. タイプI

林業労働者の高齢化が進行しており、若返りが必要な地域であるが、研修生も高齢層の割合が比較的高い。地元からの林業労働者出身の参入が多いものの、自営農林家からの参入は少ない。つまり自営農林家からの析出余力は強いにも関わらず、析出が顕在化していない。林業就業への継続意志を持つ研修生は比較的多く、都道府県外からのUIターン者の方が、地元者よりも継続意志が強い。

2. タイプII

若年層の参入は少なく、地元の農林業就業からの参入が多く、UIターン者が少ない。したがって、自営農林家からの余剰労働力が析出していることが分かる。半数が農林地所有者であり、就業への動機は、地方志向や家業を継ぐといった意識が他タイプよ

りも強い。

これらの地域では、林業労働者の高齢化がそれ程進行しておらず、また地元には十分な労働力供給があることから、新たな担い手としてUIターン者に頼らなくても地元の農林業従事者が供給源として期待できる。

3. タイプⅢ

他産業からの参入が比較的多く、農林地を持たない人の割合が4タイプ中、最も高い。これは自営農林家からの析出余力が小さいためであると言える。就業動機は自然相手の仕事や、健康的な暮らしを求めている割合が最も高い。そして林業への継続意志を持つのは、UIターン者より地元在住者である。

このタイプでは他産業出身者が林業労働力の供給源となっており、中でも地元在住者に定着が期待できる。

4. タイプⅣ

4タイプの中で、UIターン者の割合及び若年者の割合が最も高い。林業及び自営農林業出身者は少なく、他地域からの新卒者や、他産業出身者の参入が比較的多く見られる。そして地元者よりも、UIターン者の方が継続意志が強い。また経営への参画を望むなど意欲があり、UIターン者が多いゆえの住宅支援を望む声も多い。

この地域では林業労働者の高齢化が進行しており、地元の自営農林家も析出余力が小さいが、継続意思を持つUIターン者そして若年者の参入が見られるので、彼らが今後の担い手として期待できる。

現在、林業が低迷する中、自営農林家の経営が厳しい状況にある。一方で緑の雇用という、技術の習得と安定雇用が保障される新しい事業が登場した。地元の農林業からの参入が見られたタイプⅡにおいては、経営に苦しむ自営農林家の労働力が、安定的な

就業を求めて労働市場に析出したとみられる。一方タイプⅠにおいては、自営農林家からの析出余力が大きいにも関わらず、緑の雇用において自営農林家からの析出は見られなかった。その理由として、農業経営の作物編成との関連などの要因が考えられるが、その点は本アンケートでは明らかに出来なかった。

また、林業労働者の高齢化率が高いタイプⅠ・Ⅳでは、高齢化が進行していることから新たな担い手の確保・育成が必要である。したがって農林家の析出余力が同程度でも、ⅠはⅡと比べ、ⅣはⅢと比べて新規就業者への需要が旺盛であり、それがUIターン者の積極的な受け入れにつながったのではないかと考えられる。

Ⅵ. おわりに

本研究では、林業労働市場に影響を与える要素として、林業労働者の高齢化率と農林家からの析出余力に焦点を当て、林業労働市場のタイプ別に研修生の特性を示すことができた。林業労働対策を講じる際には、それら林業労働市場の違いと参入者の特性を把握した上で、それぞれの地域に適した対策を施すべきである。

今後は、林業労働市場について、農業経営や林業事業体の受け入れ態勢など他の要因についても検討する必要がある。さらに、今後どのような研修生が、実際に中核的林業労働者として定着し得るのかを明らかにする必要があり、今後の課題としたい。

引用文献

- (1) 小池正雄 (1992) 新しいライフスタイルにもとづく林業労働者に関する考察, 信大農学部紀要, 29 (2) : 89-103.

表－5. 前職居住地別に見た継続意志

(単位：%)

	Ⅰ						Ⅱ					
	継続			つなぎ	従事したくない	分からない	継続			つなぎ	従事したくない	分からない
	現職場	他の事業体	条件次第				現職場	他の事業体	条件次第			
現住所・近隣市町村	59.1	10.2	19.9	2.8	0.6	7.4	64.3	9.3	14.8	3.4	1.7	6.5
都道府県内その他市町村	58.1	16.1	12.9	6.5	0	6.5	52.7	10.9	20	9.1	1.8	5.5
都道府県外	80.6	5.6	8.3	0	0	5.6	57.8	15.6	13.3	8.9	0	4.4
	Ⅲ						Ⅳ					
	継続			つなぎ	従事したくない	分からない	継続			つなぎ	従事したくない	分からない
	現職場	他の事業体	条件次第				現職場	他の事業体	条件次第			
現住所・近隣市町村	57.6	9.7	17.1	4.5	1.5	9.7	55.4	12.2	17.3	5.2	1.8	8.1
都道府県内その他市町村	54.3	13	10.9	8.7	2.2	10.9	58.3	16.7	18.8	0	4.2	2.1
都道府県外	55.7	13.1	14.8	3.3	3.3	9.8	64.2	9.4	12.3	4.7	1.9	7.5

表－6. 研修生の今後林業に従事する条件

上段：人数，下段：割合 (%)

	合計	就労条件の改善	作業強度・環境の改善	機械化促進	資格などの取得	技術研修の充実	現場従業員が作業方法の決定等に参画	現場従業員が経営方針決定や営業等に参画	仕事に対する適正な評価	住宅への支援制度	地域社会とのつきあいを支援	特になし	その他
合計	1632	1144	380	391	680	440	251	162	490	129	97	63	31
	100	70.1	23.3	24	41.7	27	15.4	9.9	30	7.9	5.9	3.9	1.9
Ⅰ	264	191	64	55	116	81	40	21	92	23	11	10	7
	100	72.3	24.2	20.8	43.9	30.7	15.2	8	34.8	8.7	4.2	3.8	2.7
Ⅱ	496	352	104	126	226	119	74	48	126	25	48	12	6
	100	71	21	25.4	45.6	24	14.9	9.7	25.4	5	9.7	2.4	1.2
Ⅲ	396	278	100	106	157	114	64	36	136	31	15	14	6
	100	70.2	25.3	26.8	39.6	28.8	16.2	9.1	34.3	7.8	3.8	3.5	1.5
Ⅳ	476	323	112	104	181	126	73	57	136	50	23	27	12
	100	67.9	23.5	21.8	38	26.5	15.3	12	28.6	10.5	4.8	5.7	2.5

- (2) 三井昭二 (1994) 都市・山村関係からみる林業労働力の新しい動向と意義, 林業経済研究, 125:90-95.
- (3) 全国森林組合連合会 (2003) 「緑の雇用担い手育成対策事業」の社会経済的効果把握のための調査, 43-47.
- (4) 園屋奈緒子 (2004) 「緑の雇用対策」に見る高失業時代の林業労働問題—宮崎県耳川流域を事例に一, 九州大学提出卒業論文, 43-44.

(2004年11月8日 受付; 2005年1月7日 受理)